

ザンビアに行ってきました。～移動編～

コロナの影響もあり出入国が大変だった件。

4月3日に耕野を出発し、戻ったのは5月26日でした。でも実際ザンビアに滞在したのは4月4日～5月9日の36日間。

まず、日本からザンビアに出国する際にPCR検査の陰性証明書が必要になります。私は成田空港内の検査場で受けました。結果が出るのに4時間待ち。空港内は感染症対策で店がほとんど閉まっており、ひたすらボーっとしていました。

東京オリンピックの公式グッズ店も閉店▶



飛行機内でもコロナ対策がされていた件。

航空会社にもよりますが、通常飛行機内ではイヤホンや膝掛けが配られます。それに加え、アルコール消毒のジェル、マスクなどが配られました。もちろんマスクは食事以外は常に着用です。CAさんは手袋、メガネも着用していました。



▲機内で配られるセット。マスク、歯ブラシ、靴下、アイマスク、耳栓、アルコールジェル、薄手の手袋。

6月号

Vol. 7

協力隊通信

宮原 治代
(ミヤハラ ハルヨ)



▲エミレーツ航空。女性の制服が素敵

ザンビアに到着してもなかなか空港から出れなかった件。

到着して、空港の外に出るまでもとても時間がかかりました。検温し、日本でPCR検査陰性証明書を提出し、簡単な質問票をチェックします。とても単純な流れ作業のはずがうまくいかない。現場は騒然としており、混沌とした状態でした。入国手続きが済んだのは到着して1時間半後でした。

乗った飛行機▶



帰国時、成田空港の水際対策がすごかった件。

まずザンビアでチェックインする際に、日本が要請している質問票に回答しているかスマホのQRコードで確認されます。私はすっかり忘れてて冷や汗が出ました笑。ドバイでの乗り継ぎ時間も含め、約40時間後ようやく成田到着。2列に並び先導され、使われていない通路にパイプ椅子が。書かなければいけない誓約書や質問票、スマホにダウンロードしなければならぬアプリが3種類、スマホを持っていない人は強制的にレンタルしなければならないブースへ。そしてようやくPCR検査、結果待ち30分。飛行機降りて、2時間半で空港の外に出れました。そしてそのままハイヤーで隔離専用アパートへ。14日の巣ごもり生活のスタートです。まだまだ旅は終わらない。。



◀ 諸々の検査、クリアしましたよ、の紙。

ザンビアに行ってきました。～滞在編～



▲チパシャさん(左)とモニカさん(右) 星ひとみさんの手作りマスク 30 枚を農業事務所にプレゼントしました。



▲村でランチ。シマ、チキン、謎のソース、かぼちゃの葉とピーナッツの粉を混ぜたもの、かぼちゃの葉の煮込み。



▲プロジェクトの説明会兼ミーティング



▲村のトイレ・外観。壁が藁。天井なし。



▲村のトイレ・内観。穴を掘って、石で蓋しています。



▲ジャコビナさん。木津さんからもらったんだーと自慢していました。

裏です。

初めてのアフリカ、初めてのザンビアでしたが、大きなトラブルも無く過ごせました。普及員も農家の皆さんもプロジェクトが始まることをとても喜んでおり、気合い十分でした。前回研修に来た普及員は、「〇〇さんは元気にしてるの?」とか「あの時、〇〇さんがこうしてた」など丸森であった出来事を鮮明に覚えていて、早くまた丸森に行きたいと言ってました。農家さんはプロジェクトのおかげで生活が一転し、幸せな暮らしができるようになったと心から丸森の方々に感謝していました。ザンビアでも耕野でももっともっと笑顔が増えるような、そんなプロジェクトを目指したいと思います。



▲木の上に設置した蜂箱。大きくてどう猛でつこいらしいです。これ以上近づくと怒られました。



▲オクラ、でかい!ザンビアのオクラは筋が多いので、モニカさんは重曹と一緒に茹でていました。



▲トタンの上でやっていたドライ食品作りも、プロジェクトで学んだネットが主流になっていました。

余談ですが

町や村でマスクをしている人は2～3割しかいませんでした。村で感染症対策の話をしてみんなポカーンとしてました。しかし食べものは手で食べる習慣があり、食事の前の手洗いは日本より習慣付いている気がします。また、高齢者が少なく若者子供が多いので、爆発的な感染にならないという見解もありました。